ぜんせき THE ZENSEKI

第7685号　月・水・金発行（祝日除く）　組合員 月1,728円 組合員外 月1,944円（消費税込）

5月19日（金曜日）　2017年（平成29年）

発行所 全国石油商業組合連合会
東京都千代田区永田町2-17-14
電話 03-3593-5751
http://www.zensekiren.or.jp

昭和38年7月1日第3種郵便物認可 振替口座00130-4-52707

ぜんせきweb版　登録受付け中！
新規のご登録の手続きは
下記ウェブサイトでできます
http://zensekiweb.com

論説

市場変化に挑戦する総代会

今週から都道府県石油組合の通常総代会（総会）が始まった。1年間の組合活動を総括し、これからの1年間に組合が行おうとする事業計画などを決める重要な会議だ。各地の総代会は6月初旬まで続き、来月15日に三重県の志摩で開催する全石連通常総会が総まとめの場となる。

各組合がこれまで開いた理事会での総代会向け審議議案をみると、多くの組合が2017年度事業計画として官公需の受注拡大に向けた取り組みの強化や、SS経営革新の推進などを掲げている。それに加えて今回特徴的なのが、全石連が提唱している『満タン&灯油プラス1缶』運動である。それぞれの組合が新たな事業計画として掲げ、積極的に取り組む方針を決議しようとしている。

満タン運動の本家である福島ではこれまで実施してきた「元気ガソリン満タンキャンペーン」と並行して実施するほか、青森のように地域実情に合わせて「灯油ホームタンク満タン」のスローガンを加えて実施する組合もある。それぞれの組合が知恵を絞って運動を盛り上げようとしており、業界が一丸となって展開する体制が敷かれようとしている。

もう1つ、多くの県が事業計画に挙げているのが人材確保の取り組みである。ますます深刻化するSS現場の人手不足に対し、全石連も重要な課題と位置づけて検討を進めているが、各県でも組合員からの声を受けて、重点項目として対策を講じていく方針を掲げている。すでに地方自治体の支援制度などを活用して取り組もうとしている組合もあり、今後は成功事例などを参考に各種の対策が全国規模で広がっていくことが想定される。

昨今、各県で業界最大の注目事項となっているのがJXTGに代表される元売統合などによる市場への影響だ。現在までに行われた理事会などではほとんどの理事長が言及しており、巨大元売の誕生による市場の安定化や、収益の見込める事業環境への変化を期待する声が上がっている。

この元売統合による市場環境の変化は、これまでの元売再編とは比べものにならないほどSS経営に影響を及ぼす可能性がある。経営環境の整備は組合活動の最大の目標。今年の総代会はこの変化を想定したうえで、組合と組合員がどのようなことをすれば生き残れるか、これを確認する大事な場になる。

全石連 需給適正化求める

資源・燃料分科会 高度化法3次告示案示す

重質油分解装置〝活用〟義務付け

総合資源エネルギー調査会資源・燃料分科会は15日に会合を開き、石油精製・流通研究会が4月7日に取りまとめた最終報告書と、SS間の公正な競争環境の整備に向け、元売・系列SS間の適正な取引慣行の形成を促す『ガソリン適正取引慣行ガイドライン』を報告・説明するとともに、エネルギー供給構造高度化法の3次告示案を示した。

委員として参画する加藤専務理事と木村会長

3次告示案では、1次・2次の「重質油分解装置の装備率」や「残油処理装置の装備率」を高めるという、いわゆる分母分子規制から、重質油分解装置（FCC、RFCCなど）への通油量を増加させることを目標に掲げる。通油量は2013～15年度の平均値を測定。各社の実績に応じて今後5年間（17～21年度）の改善目標を設定する。国内全体で韓国などの輸入品に負けない生産性、輸出可能な生産性の達成を目指す。

告示対応によって各社の重質油分解装置などの装備率は向上したが、実際の分解能力の活用は不十分であることから、ガソリンや石化原料となるナフサなど高付加価値製品を多く生産させることを目指す。

委員として参画する全石連の加藤文彦専務理事は、ガソリン取引慣行ガイドラインについて「卸価格は元売とSS事業者との相対取引だが、SS業界は1SSディーラーが7割を占める。零細事業者を含めSS業界が経営規模の大きな元売と交渉する際の取引ルールが一層明確化されたことの意義は大きい」と指摘。「全石連としては早速、全国各地でガイドラインの説明会を開催し、周知を図っているところ。エネ庁は、しっかりと元売の取り組みをフォローアップしてほしい。取引のルールが明確化されることにより、元売とSS業界の系列取引の信頼関係が強化され、SS設備の再投資や品揃えへの投資が一層進めやすくなるよう期待している」と述べた。

また「元売との協力に加え、SS業界としての協業化も重要。全石連では組合SSの地域ネットワーク性を活かし、官公需の組合受注に係る運動を推進するとともに、個々のSSが地域コミュニティ拠点としての機能の多角化、チェーンオペレーションを含めた経営革新の努力をしている。こうした官公需の組合受注や次世代の革新的なSS経営の確立に向けた業界の努力に加え、安定供給に不可欠な公益性のある部分については、政府のより一層の後押しをいただきたい」と訴えた。

一方、高度化法の3次告示については、①ガソリン留分からより付加価値の高い石油化学製品を効率的に生産する設備や、市況に応じてガソリンと石油化学製品の生産体制を柔軟に組み替えることのできる設備が導入されるよう、必要な環境の整備②輸出能力を高めることや海外に販売先を確保することは、販売先の柔軟性を高める観点から重要で、輸出能力を向上させるための製品出荷用タンクの整備や桟橋機能の拡充を進めやすくする環境の整備―を要請するとともに、「国内需給バランスの適正化を図ってほしい」と強調した。

さらに加藤専務は「3次告示は高値の軽質原油への切り替えを促すことを狙いとしており、国内全体としてガソリンなどの供給量を増やすことを意図してはいないと理解して良いのか」と質し、西山英将石油精製備蓄課長は「同じガソリンの量を作るのでも、高値の軽い原油から作るよりも2次装置を稼働させることで安価な重い原油から同量のガソリンを作るということなので、2次装置が高度化すれば、その分だけ精製サイドの原油調達のオプションが増えていく。基本はそういう考え方である」と述べた。

一方、石油連盟の木村康会長は石油精製・流通研究会の最終報告書について「企業の自律的な事業活動に委ねることを基本としつつ、元売と系列SSの共存・共栄、より一層の適正な取引慣行の形成、公正な競争環境の整備を目指すとの方向性が示された。これまで石油業界が主張してきたことが反映されたことに深く感謝を申し上げる」とした。3次告示案は「国際競争力強化の観点から、一層の重質油分解装置の有効活用を目指すとされている点に異論はない」と指摘。ただ「重質油分解装置の有効活用などの取り組みは、災害や原油の重軽格差といった経済情勢の変化に大きく影響を受ける。図らずもそうした事態が生じた場合には、3次告示案に記載の通り、目標達成義務の適用除外としてほしい」と要請した。

このほか、17～21年度までの石油備蓄目標について、元売などに課せられる民間備蓄を石油内需の70日分とするとともに、産油国共同備蓄の2分の1と合わせて輸入量の90日分とすることを決めた。

次回会合は6月21日に開催し、中間取りまとめなどを行う。

総（代）会シーズン開幕

喜多村理事長5選 油政連は谷会長を新任

喜多村理事長

谷会長

全国都道府県石油組合の総（代）会シーズンが16日、福岡と高知を皮切りに始まった。

そのうち福岡石商・協は任期満了に伴う役員改選を行い、喜多村利秀理事長（喜多村石油店社長・エネオス系）の留任を決めた。喜多村氏は5選。

一方、福岡県石油政治連盟（鎭隼登会長）は任期満了に伴う役員改選で鎭氏が勇退、後任に谷弥壽彦氏（谷弥石油社長・昭シェル系）を新任した。

5月2週 ガソリン出荷再び不振

石連週報によるガソリン出荷量は、5月第2週（7～13日）が前週比20・9％減、前年比3・8％減の90・2万キロリットルと落ち込み、2週ぶりの不振となった。過去5年平均比でみても3％減と低調に転じている。

ガソリン生産量は前週比4・1％減の99・9万キロリットルに低下し、3週ぶりに100万キロリットルの大台を割り込んだ。輸出は2・3万キロリットルに減少し、大不振だった。

一方、在庫は前週比3・6％増、前年比0・8％増の184・2万キロリットルに積み上がり、再び余剰感が生じている。ただ、過去5年平均比でみると5・2％減の低水準。

軽油出荷量は前週比15・1％増、前年比3・9％増の55・8万キロリットルとなり、好調を持続した。これに伴い、在庫も2・7％減、8・9％減の167・5万キロリットルに取り崩された。（2面にDATA）

宮城・佐藤氏に褒章伝達

お喜びの佐藤ご夫妻

春の褒章伝達式が16日に経済産業省で開催され、宮城石商・協理事長で全石連副会長（政策・環境部会長）の佐藤義信氏（丸山社長・エネオス系）が藍綬褒章を受章した。

佐藤氏は「まずは事の重大さに驚きを隠せない。東日本大震災では多くの尊い命が失われ、果たして私がこのような栄誉ある章を受章してよいのか今日まで悩んできた。石油はエネルギー供給の〝最後の砦〟であり、国民生活を支える重要なライフライン。国民生活の安心・安全のため、石油製品の供給体制の一層の強化に尽力していきたい」などと今回の受章の喜びを語っている。

G卸 JXTG1.5円安、出光据置き

JXTGエネルギーは18日からのエネオス系向け先行指標、およびEMG系向けの系列仕切りをそれぞれ通知した。特約店・代理店筋によると、エネオス系向けは前週比でガソリン、灯油が1・5円、軽油、A重油は1円の各値下げ。一方、EMG系向けの仕切りは前週比でガソリン1・5円、軽油1円をそれぞれ値下げした。

出光興産は18日からのSS向け週決め仕切り方針を通知した。販売店筋によると、前週比で全油種据え置き。

長野・渡邉氏の理事長7選内定

【長野】長野石商・協（渡邉一正理事長）は16日開いた選考委員会で、次期理事長として渡邉氏（渡辺商事会長・エネオス系＝写真）の内定を決めた。渡邉氏は7選目となり、6月6日開催の通常総代会などを経て正式決定する。

長野油政連は曽根原新会長へ

【長野】長野県石油政治連盟（原強志会長）は16日開いた選考委員会で、次期会長として曽根原幹二氏（大町シェル石油社長・昭シェル系＝写真）の内定を決めた。6月6日開催の通常総代会を経て正式決定する。

東京4月分ガソリン卸 系列111.6円・業転106.1円

平均格差5.5円に拡大

東京・仕入価格調査結果（消費税別：円/㍑）

		最高	最低	平均	最多価格帯
系列	ハイオク	125.0	117.6	121.6	122
	レギュラー	115.0	107.6	111.6	112
	軽油	90.8	83.6	87.9	88
	灯油	64.8	51.7	55.9	54
流通卸	ハイオク	116.8	114.0	115.7	116
	レギュラー	107.2	104.0	106.1	106
	軽油	84.1	82.2	83.3	83
	灯油	52.0	50.4	51.2	50

東京石商（矢島幹也理事長）がこのほど集計した「4月分」の仕入価格調査結果（消費税別、回答数27件）によると、前月比でレギュラーの系列平均は1・6円安の111・6円、流通卸（業転）平均は2・5円安の106・1円で、格差は4・6円から5・5円に拡大した。最多価格帯は、系列が横ばいの112円、業転が2円安の106円。消費税込みに換算すると、系列平均120・5円、業転平均114・6円となる。

軽油の系列平均は1・5円安の87・9円、業転平均は1・4円高の83・3円で、格差は7・5円から4・6円に縮小。最多価格帯は、系列が1円安の88円、業転も1円安の83円。

灯油の系列平均は1・3円安の55・9円、業転平均は1・1円安の51・2円で、格差は4・9円から4・7円に縮まった。最多価格帯は、系列が3円安の54円、業転が2円安の50円。

レギュラー小売 4週続落133円弱

エネ庁週市況

資源エネルギー庁による小売価格調査（15日・消費税込み）レギュラー全国平均は前週比0・4円安の132・7円と4週連続で値下がりした（累計1・3円安）。地域別では、0・7円高の沖縄、0・6円高の秋田、0・3円高の北海道と東京など5都道県で値上がり。1・4円安の岡山、1・3円安の石川、福井、鳥取、1・1円安の神奈川など39府県で値下がりし、3県で横ばいとなった。

ハイオクも0・4円安の143・5円。軽油は0・2円安の111・5円だった。灯油は18㍑店頭が2円安の1391円、配達が4円安の1532円。（2面に県別データと「今週の地域市況」概況）

今週のガソリン小売市況概況 （5月3週）

	全体概況	ベンチマーク 前週	ベンチマーク 当週	備考 ※斜字はフル
北海道	⇗	￥123	￥131	*札幌市・地場・系列*
北東北	⇒	￥130	￥132	秋田市・広域・系列
南東北	⇘	￥134	￥134	*仙台市・広域・系列*
信越	⇘	￥125	￥125	新潟市・地場・系列
北関東	⇓	￥120	￥119	宇都宮市・異業種・PB
首都圏	⇘	￥120	￥119	千葉市・異業種・PB
山静	⇘	￥135	￥134	*静岡市・広域・系列*
東海	⇓	￥122	￥125	鈴鹿市・広域・系列
北陸	⇓	￥124	￥125	福井市・地場・系列
京阪	⇓	￥128	￥126	大東市・子会社・系列
阪神	⇓	￥129	￥129	神戸市・地場・系列
山陽	⇓	￥125	￥125	岡山市・地場・系列
山陰	⇓	￥131	￥130	*米子市・地場・系列*
四国	⇘	￥136	￥136	*高松市・地場・系列*
九州北	⇘	￥129	￥129	*福岡市・地場・系列*
九州中	⇘	￥125	￥125	熊本市・広域・PB
九州南	⇓	￥130	￥130	宮崎市・地場・PB

⇑0.5円超上昇、⇗小幅上昇、⇒横ばい、⇘小幅下落、⇓0.5円超下落

ポンプあいうえお

▼今年はどうやら暑くなるようなので、アイスクリームが売れそうだ。バニラやストロベリーなど味・形状によって種類が数多くあるが、筆者は中でもトルコアイスが大のお気に入りだ。残念ながらブームはとうの昔に過ぎ去ったが、独特の粘り気と食感は忘れられなく、思い出した時には口に入れてしまっている▼トルコでは「ドンドゥルマ」と呼ばれ、国内のコンビニで売っている物だと澱粉などを混ぜて粘り気を生み出しているようだが、本場ではオルキス・マスキュラと呼ばれる植物の塊根を乾燥、粉砕など加工してできたサーレップというものを混ぜるようだ。ただ、常に混ぜ続けないと固まってしまうらしい▼サーレップは高価なので取り寄せるわけにもいかず、手軽にできる方法はないかと思い、インターネットで調べてみると、納豆をかきまぜた時にできる糸を活用することが紹介されていた。さも美味しそうに見せかけていたが、実際にやってみるとボウルから豆だけを取り出すのが大変で、粘りも思ったほど強くなく、甘いとろろ汁を食べているようで口には合わなかった。胃も痛くなり下痢気味になった▼車検費用の不当表示など、一部のSSで不祥事が先ごろ発覚した。消費者にとって、胃を悪くするだけでは済まない。再発防止策を徹底する必要がある。

きょうの紙面

2面　総（代）会シーズンに突入
■DATAコーナー＝原油価格、石油製品先物情報、週動向調査、石連週報
3面　東京版・16年度ガソリン粗利概況/中国版・GW商戦に一定評価
4面　北海道今冬灯油商戦総括／市況概況

TMC TOMINAGA MFG CO

Silkyline シルキーライン
ハイグレードなサービスステーションを演出。

AQUATECT
水検知機能搭載。油中に混入した水を高精度で検知し、
誤って車両に給油してしまうトラブルを未然に防止します。

シグナルランプ　※オプションとなります。
「待機中」「給油中」などの情報を光でお知らせ。SSのラッシュ時でもランプを確認することで
スムーズな誘導が可能です。

"燃料供給システム"の明日に取組む　http://www.kyoto-tmc.co.jp

株式会社富永製作所　〒604-8493 京都市中京区西ノ京南両町88
営業本部 ☎(075)801-8139代表 FAX(075)801-0717
仙台営業所 ☎(022)287-9311 FAX(022)287-9312
東京支店 ☎(03)3484-5051 FAX(03)3484-3944
名古屋支店 ☎(052)414-1181 FAX(052)414-1180
関西支店 ☎(0774)41-3443 FAX(0774)41-3444
広島支店 ☎(082)283-2428 FAX(082)283-2606
高松支店 ☎(087)843-7130 FAX(087)843-9139
福岡支店 ☎(092)651-3168 FAX(092)651-3118
事業所・代理店／全国主要39都市

総（代）会シーズンに突入

福岡　量から質の経営へ

福岡は16日開いた通常総代会で、市場の変化に対応した経営革新、公正で公平な取引環境の実現、安心・安全のためのSSネットワークの強化などを骨子とする事業計画と総額1億552万円の予算を原案通り承認した。

喜多村利秀理事長は「低燃費車の普及などで業界を取り巻く環境が大きく変わる中、今後いかにして石商の結束を強めて生き残るかが問われている。販売量の拡大を目的とした価格競争から脱却し、適正なマージンを確保し、再投資が可能な収益構造への転換を早急に図らなければならない」と述べた。

また、元売の統合に言及し「JXTGの誕生によって業界は大きく変わる。経営の一本化はまだ先になり、流通の末端にまで効果が表れるのは時間がかかるだろうが、需要減少の中で適正な収益を確保できる業界になることを期待する」と指摘したうえで、「組合という名の船に乗り組んだ仲間が一致団結すれば、必ず明るい未来が拓ける」と強調した。

組合に結集して経営基盤の強化を図ろうと確認した福岡

健全な商環境の構築を目指す高知（円内は武井理事長）

高知　元売統合効果に注目

高知は16日に開いた通常総会で、喫緊の課題であるSS過疎地対策などのために足元の商売を見つめ直すとともに、適正マージンが得られる健全な商環境の構築や将来への投資など利益が確保できる業界を目指すことなどを確認、国庫補助事業や官公需共同受注事業などを進める事業計画と総額3418万円の収支予算案を満場一致で承認した。

冒頭あいさつで武井勝一理事長は「4月にはJXとTGが合併し巨大な元売が誕生した。現在はガソリンの乱売を抑えるため卸価格の改定に乗り出すなどの動きを見せているが、皆が利益を得ることができるような市場対応や公平性を織り込んだ仕切り体系が構築されるよう注目している」と今後の進展に期待を込めるとともに、「市場規模の小さい当県では、なんとしても適正な利益を確保していく必要がある」と強調した。

東京　持続可能な業界構築

東京石商・協（矢島幹也理事長）は16日定例理事会を開き、30日開催の通常総代会への提出議案を了承した。

また、各委員会などの活動状況を報告し、経営情報新燃料委員会は雇用支援を図る計画案を説明、事業保安委員会は昨年度の共同事業

年間実績で洗車用タオル・賠償責任共済・中型生命保険が全石連目標3種目を達成したことを紹介した。

意見交換では、神奈川石協が構築した官公需カードシステムについて、「東京でもぜひ取り組んでほしい」「大いに期待している」などの声が続き、発券店値付けカード問題の改善効果も視野に入れながら具体的な検討を積極化していく方針を再確認した。

矢島理事長（写真）は「JXTGの発足、出光と昭和シェルの協業化加速、コスモとキグナスの資本業務提携など潮目が変わりつつある。我々も持続可能な業界づくりを続けていく」などと述べた。

長野　業界環境の改善期待

【松本＝長野】長野石商・協（渡邉一正理事長）は16日開いた理事会で、2016年度専務理事を招き、最近の取り組みや今後の課題などを聞いた。

渡邉理事長（写真）は「本年度も補助金を有効活用してほしい」としたうえで、「JXTGがスタートし約1ヵ月半。7月からは新たな仕切り体系が導入され、中期経営計画も策定された。最適な生産と経営体質が構築されることで、石油販売業界の環境も良くなることを期待している」と述べた。

4社会福祉施設に300万円を寄付

茨城・関彰商事

【つくば＝茨城】関彰商事（本社・筑西市、つくば市、関正樹社長・エネオス系）は先ごろ茨城県の社会福祉施設4ヵ所に合計300万円の寄付金を贈呈した。これは「セキショウふれあい基金」によるもので、同基金は1999年から毎年「地域社会に根ざし地域の皆様とともに生きる企業」として、社員と会社が社会福祉（貢献）活動を支援することを目的に続けており、寄付金は社員と会社の募金から拠出している。

障害者就労支援施設を訪れる関社長（最前列右）

今回は水戸市の障害者就労支援事務所に100万円、龍ヶ崎市のNGO未来の子どもネットワークに50万円、境町の放課後デイサービスに50万円、水戸市の茨城県体育協会に100万円を寄贈した。

軟化地域じわり拡大

今週のガソリン市況　5月第3週

◎北海道…大型連休初めに大幅に軟化した札幌は、セルフ129円程度、フル131～132円程度に上昇、安値量販セルフは10円値上げして127・8円表示になった。旭川はアサヒ商会の117・8円表示が影響して、一般セルフも120～3円に軟化、フルは131～4円で横ばい。函館はセルフ129円程度、フル132円程度に上昇し、安値量販グループはアサヒ122・8円、モダなど126・8円表示となっている。

◎東北…仙台はGW中に軟化した水準で推移し、セルフ125円中心。福島市はセルフ137～8円で変わらず。盛岡市は2～3円下落しセルフ119～123円となった。山形市は周辺地域軟化の影響で2円前後下がりセルフ123～5円。青森市は121～130円で変わらず。

◎信越…新潟市内は123～5円、上越や長岡市内でセルフ122～7円、柏崎も122～7円と軟化傾向。

◎北関東…前橋・高崎はフルが横ばいで132～4円、セルフは2円程度下がり128～130円前後となった。宇都宮は若干軟化しフル124～8円、セルフ120～5円、足利市や佐野市は122～4円。茨城は126～9円中心。

◎首都圏…埼玉は若干軟化し県央部・南部で125円前後、東部・西部で124～5円前後。千葉県は123～5円中心で下落。都内の主要幹線沿い量販店は軟化傾向で、120円台半ばが増えてきている。

◎山静…静岡は2円程度軟化し、静岡市内のセルフ129～131円、フル134円前後、県西部は128～130円、東部は126～8円となった。山梨は130円前後で推移。

◎東海…愛知は5円程度上昇し、名古屋市内や尾張部などほぼ全県的にセルフが125～32円となりGW水準に。ただ、常滑ではPBバロンパーク、コストコとも2円下げ、バロン113円、コストコ115円と逆転現象。三重は鈴鹿などで2円軟化し117円前後となる一方、3～5円値上げしたSSも少なくなくまだら模様。

◎北陸…富山、石川ともほぼ横ばい、安売りPB除き125円前後で推移。福井も坂井地区で117～8円が見られるが、1～2円上げたSSもあり、全体ではほぼ前週並み。

◎近畿…値下がり傾向で、系列平均は阪神・京阪とも126～9円。130円台の看板は減りつつある。

◎中国…山口県内の一部地域で1円程度軟化し、山口市内125円、宇部市内123円、周南市内130円前後が中心となった。米子市内のフルは1円程度下落し130円前後。岡山市内のセルフは125円中心、広島市内のセルフは127円中心でいずれも横ばい。

◎四国…一部で軟化傾向。新居浜市内で安値PBに追随するSSも見られ、セルフが5円前後軟化し124円が主流となった。高松市内はフル・セルフともに横ばい。

◎九州…大きな動きは見られないが、一部地域で軟化の兆しも。福岡市中心部は130円台もあるが、129円を下回る店も目立ってきた。郊外では各種割引で125～7円も多い佐賀県や熊本県では一部量販店が周辺より3円前後安く、一般商系の懸念材料に。立夏を過ぎ、暑さからエアコンを使う機会が増え、需要増への期待も。

コストコ静岡進出へ

今夏、浜松市東区に

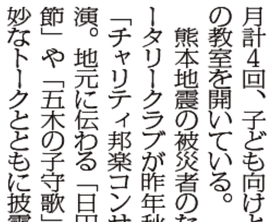
【浜松】静岡県浜松市東区に今夏、コストコがSSを併設してオープンする。同県へのコストコの出店は初めてで、周辺SSでは市場動向を懸念する声が多く聞かれる。

現在、大型商業施設の跡地で建設が進んでおり、計量機8基・16レーンの大規模SSとみられる。貼り出されたオープン告知の横断幕は「コストコホールセール浜松倉庫店」とされている。

周辺3㌔㍍圏内に10SS以上ある激戦区で、SS業者からは「小売価格差が10円前後となれば、既存店の減販が懸念される」と警戒心を隠さない。

近隣SSでは、年会費を設定した会員募集を展開し、顧客の囲い込みを図る動きもみられるなど前哨戦はすでに始まっている格好だ。また、コストコはアルバイトなどの時給が全国一律と言われ、オープン告知の横断幕ではスタッフ募集を伏せているものの、ホームページではすで受付を開始しており、人材流出も気がかり。

静岡石商の鈴木裕司理事長は、「自社の周辺にはないから〝無関心〟ではなく、石油販売業界全体として意識することが必要。すでにコストコが進出している地域の周辺SSで、どの程度の影響を受けているかを明確に分析することも重要だ」と訴える。



今夏オープンに向け、建設が進むコストコホールセール浜松倉庫店（先月25日撮影）

DATAコーナー

■石油先物市場・5／17
△値上げ、▲値下げ◇ストップ高、◆ストップ安、単位：¥／KL

東京商品取引所（京浜商上：1枚＝50KL）

限月	16：30現在	前日比
（前日出来高1,831枚）		
ガソリン		
⑥限月	48,140	▲280
⑦限月	49,100	▲380
⑧限月	49,050	▲380
⑨限月	48,930	▲350
⑩限月	48,740	▲410
⑪限月	48,590	▲490
（前日出来高437枚）		
灯油		
⑥限月	46,030	▲600
⑦限月	46,240	▲480
⑧限月	46,090	▲620
⑨限月	46,550	▲570
⑩限月	47,670	▲460
⑪限月	48,670	▲570
（前日出来高-枚）		
軽油		
⑥限月	48,000	0
⑦限月	48,000	0
⑧限月	48,000	0
⑨限月	48,000	0
⑩限月	48,000	0
⑪限月	48,000	0

中京石油市場（伊勢湾油槽所：1枚＝20KL）

限月	16：30現在	前日比
（前日出来高33枚）		
ガソリン		
⑥限月	47,850	▲650
⑦限月	48,500	▲700
⑧限月	49,500	0
⑨限月	48,700	0
⑩限月	49,110	0
⑪限月	50,020	0
（前日出来高1枚）		
灯油		
⑥限月	46,500	0
⑦限月	46,000	▲510
⑧限月	45,600	0
⑨限月	46,000	0
⑩限月	49,010	0
⑪限月	49,010	0
軽油		
⑥限月		
⑦限月		
⑧限月		
⑨限月		
⑩限月		
⑪限月		

原油指標

			前日比
国内指標	$／B	51.07	(Δ0.30)
	¥／KL	36,492	(▲159)
WTI	$／B	48.66	(▲0.19)
	¥／KL	34,770	(▲495)

■SS店頭市況週動向調査・5／15
（単位：¥／L、↑値上げ、→同値、↓値下げ）

レギュラー							
北海道	132.7	↑	静岡	133.6	↓	鳥取	130.1	↓
青森	131.2	↓	山梨	132.3	↓	島根	135.6	↓
岩手	130.2	↓	愛知	130.5	↓	山口	130.3	↓
宮城	130.6	↓	三重	133.0	↓	徳島	127.7	↓
福島	132.7	↑	岐阜	135.4	↓	高知	136.3	↓
秋田	133.2	↑	富山	131.5	↓	愛媛	135.4	↓
山形	134.3	→	石川	130.2	↓	香川	132.0	↑
新潟	131.0	→	福井	133.4	↓	福岡	131.8	↓
長野	136.2	↓	滋賀	133.3	↓	大分	136.9	↓
群馬	131.1	↓	京都	134.2	↓	佐賀	134.7	↓
栃木	130.6	↓	大阪	131.5	↓	長崎	140.9	→
茨城	131.7	↓	奈良	131.5	↓	熊本	133.0	↓
千葉	130.1	↓	和歌山	133.6	↓	宮崎	132.2	↓
埼玉	127.4	↓	兵庫	132.5	↓	鹿児島	140.4	↓
東京	134.2	↑	岡山	127.0	↓	沖縄	139.2	↑
神奈川	129.8	↓	広島	131.7	↓	全国	132.7	↓

■国内供給統計（石連週報）・5月第2週末
（単位：千KL、%）

	東日本	西日本	合計	前週比	前月比	前年比
①原油処理量	2,008.9	1,382.3	3,391.2	98.6%	97.3%	92.6%
②製油所稼働率	81.8	94.7	86.6	▲1.2	▲2.4	0.3
③石油製品在庫量						
ガソリン	1,019.6	821.9	1,841.5	103.6%	104.5%	100.8%
灯油	838.9	345.1	1,183.9	103.1%	121.6%	83.5%
軽油	880.2	794.6	1,674.7	97.3%	116.0%	91.1%
A重油	493.1	329.6	822.7	98.6%	105.1%	99.1%
6油種計	4,913.5	3,781.4	8,694.9	102.8%	110.9%	94.3%
④製品出荷量推計						
ガソリン	566.7	335.3	902.0	79.1%	96.8%	96.2%
灯油	86.9	58.3	145.2	86.9%	39.8%	86.5%
軽油	383.3	174.9	558.2	115.1%	86.6%	103.9%
A重油	143.1	85.5	228.6	204.8%	98.8%	115.1%
6油種計	1,348.9	695.6	2,044.5	93.5%	84.5%	92.7%

生活、産業、地域を支える　石油の力SSの力　大分県日田市 ▶vol.241◀

地域密着経営

民謡を通じ広がる人との絆

天領・日田から民謡の輪を全国に広げたい――大分県日田市内で2ヵ所のSSを経営している吉冨産業社長（忠エネ系）の吉冨今日子さんは、子どものころから2児の母になる現在までひたむきに歌い続けている。各地の大会で計10回以上のグランプリに輝き、忙しい時間を縫って民謡教室も主宰している。

熊本県阿蘇市生まれ。生まれたばかりのころから風呂場で祖父に聞かされたのが民謡との出会い。9歳になると「ハイハイ」と合いの手の練習をさせられ、いつの間にか大好きになった。中学生になって先生から勧められて、文化祭で伸びやかな美声を披露したことから評判になり、多くの人から頼まれて様々な場で歌うようになった。

2006年に結婚して日田市に移り、夫の節次さんとともにSSを切り盛りしながら歌い続けている。年間40回前後、全国各地で開かれる民謡大会に出場し、優秀な成績を収めている。また、SSでは閉店後に毎月計4回、子ども向けとおとな向けの教室を開いている。

熊本地震の被災者のために日田ロータリークラブが昨年秋に開催した「チャリティ邦楽コンサート」に出演。地元に伝わる「日田のコツコツ節」や「五木の子守歌」を明るく軽妙なトークとともに披露。「津軽じょんがら節」の美しい曲弾きには大きな拍手が沸いた。義援金は阿蘇市に届けた。

「民謡は生活を歌った唄です。田植え唄は、泣く子が欲しい、乳をのませている間はあぜに腰掛けることができるから、という意味ではないか、と私は捉えています。民謡には、しみじみとした歌も賑やかな曲もあります。昔の人々の暮らしと心を現代の人々にも伝えたいのです」と話している。

日田市は、北部九州のほぼ中央、大分県西部に位置し、阿蘇・くじゅう山系などの山々に囲まれている。古くから交通の要衝として栄え、江戸時代には幕府直轄地の天領として郡代が置かれ、九州の政治・経済・文化の中心地として繁栄。歴史的な町並みや伝統文化が脈々と受け継がれ、『九州の小京都』と言われる。

この地で民謡を通じた〝人と人のきずな〟を大切にしている吉冨さん。その姿勢をSS経営でも貫いている。日田市は低価格競争が激しく、厳しい経営環境が続いているが、競争とは一線を画し、独自の方針を堅持している。（次回は、故郷の島民の暮らしを守るため、船で石油を送り続ける三重県のSS）

SSには優勝カップや優勝旗があふれている

世界の三大ガソリン計量機メーカー
TATSUNO

役員・従業員が安心して働ける環境整備をお手伝いします
全役員・従業員のみなさまのために
全石連中型生命グループ保険（災害割増特約付団体定期保険・全石連独自の見舞金制度）

この制度の内容・特色

充実した弔慰金制度を確立できます。
病気・不慮の事故による死亡を24時間保障します。
毎年当団体のみで収支計算し、剰余が生じたときは配当金をお支払いします。（※収支計算の結果、配当金が0となる年度もありえます。）
医師の診査なしで加入できます。（※健康状態について告知が必要です。）
全石連独自の制度として医療見舞金制度があります!!（※生命保険ではありません。）

掛金は損金または必要経費に算入できます。
※平成28年6月現在の税制に基づくものです。今後、税務の取扱が変更される場合もあり、将来を保証するものではありません。（法人税基本通達9-3-5・9-3-6の2、所得税法第37条・第76条）

保障内容例　100万円コース～1200万円コースのうち3つのコースをご紹介します。

●保障内容

保障の範囲＼ご加入コース		100万円コース	200万円コース	300万円コース
死亡保障 高度障がい	病気による死亡・高度障がい<死亡・高度障がい保険金>	100万円	200万円	300万円
	不慮の事故による死亡・高度障がい<死亡・高度障がい保険金＋災害・災害高度障がい保険金>※うち災害・災害高度障がい保険金	200万円 ※100万円	400万円 ※200万円	600万円 ※300万円
医療見舞金	病気による入院（入院期間5日以上～20日まで）	20,000円		
	病気による入院（入院期間21日以上）	30,000円		

※医療見舞金は加入期間6ヵ月以上の方が対象となり、お支払いは保険期間中に1人1回が限度となります。（全石連独自の制度です。生命保険ではありません。）

●月額掛金

掛金表		15～35歳	36～40歳	41～45歳	46～50歳	51～55歳
100万円コース	男性	293円	330円	383円	477円	624円
	女性	240円	285円	312円	364円	435円
200万円コース	男性	586円	660円	766円	954円	1,248円
	女性	480円	570円	624円	728円	870円
300万円コース	男性	879円	990円	1,149円	1,431円	1,872円
	女性	720円	855円	936円	1,092円	1,305円

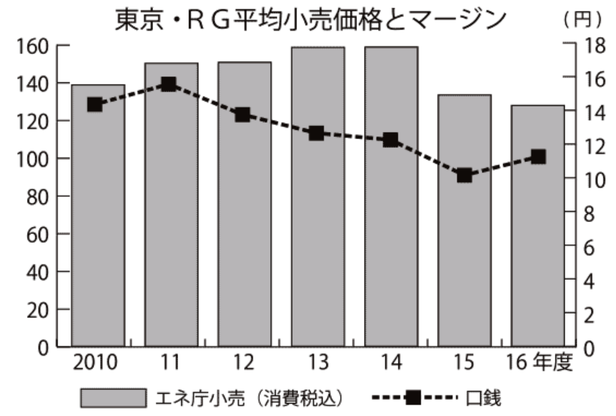
委託保険会社　大同生命保険株式会社（事務幹事会社）　第一生命保険株式会社

※ご加入に際しては、所定のパンフレット（契約内容重要事項記載資料）を必ずごらんください。
※この資料は、平成28年6月時点の制度内容に基づき記載されており、将来、制度内容は変更することがあります。

●お問い合せは全石連または加入されている石油組合、委託保険会社の営業店まで
全国石油業共済協同組合連合会　共同事業グループ　TEL03-3593-5844　FAX03-3597-1712
〒100-0014　東京都千代田区永田町2丁目17番14号　ホームページ石油広場 http://www.zensekiren.or.jp
F-28-2(業)(平成28年7月1日)G6008

東京
関東支局（千代田区永田町2-17-14 石油会館）
03（3593）5757

16年度都内ＳＳ
粗利1.1円良化も低位続く
〝量販〟〝質販〟格差くっきり



都内ＳＳにおける2016年度のレギュラーガソリン平均小売価格は、前年度比5・6円安の127・7円、マージンは1・1円良化し11・3円となった。資源エネルギー庁調査による週次小売価格の月間平均値、および月次卸価格から試算したもの。これに対し、量販店などのデータが相対的に多い価格情報サイトとエネ庁調査で対比した場合、小売価格は122円、マージンは6円程度にとどまり、〝量販〟〝質販〟の格差が改めて鮮明化している。一方、東京石商政策委員会（大家章嘉委員長）が毎月下旬時点を中心に集計している「系列平均仕入価格」は、エネ庁卸に比べ1・2円高、また「系列最多価格帯」とエネ庁卸はほぼ同水準だったことがわかった。

都内のレギュラー平均小売価格は10年度150・6円、11年度158・5円、12年度158・7円、13年度133・3円で、16年度127・7円で、昨年度は2年連続で軟化した格好。

これに対し、マージンは5年ぶりにやや回復へと転じたものの、10年度以降では最低だった昨年の10・2円に次ぐワースト2にとどまった。

一方、同石商では10年超にわたって仕入価格調査を続けているが、毎月下旬時点を中心とした調査結果と、エネ庁が翌月末に発表している月次卸価格調査との格差を比べたところ、10年度0・9円、11年度1・5円、12年度1・0円、13年度0・7円、14年度0・5円、15年度1・3円、16年度1・2円のいずれも「エネ庁卸安」で、最終的な卸価格は1円前後安くなっているとともに、同石商調査時点の系列最多価格帯とほぼ同水準になる、といった傾向も読み取れた。

都の「満タンＰＲ運動」へ協力
組合員全ＳＳ ロール紙で周知

東京石商（矢島幹也理事長）は組合員全ＳＳを対象に、東京都が大規模災害の発生に備えて取り組みを開始した「満タンＰＲ運動」に協力、レジロール紙の裏面広告を活用しながら満タン促進の周知に努めてきた。

都総合防災部は、災害時に備えて日常的に満タンを心がける〝自衛的備蓄〟の普及啓発活動を実施。その認識高揚を図るため、ドライバーの給油機会を捉えてアピールすることとし、組合員ＳＳが協力要請に応えた。

給油伝票の裏面キャッチコピーでは「災害から身を守るため、車の燃料は早めに満タンに！」「いまやろう」と謳い、首都直下地震などの大規模災害が起きた場合、「必要な数量を、必要な時に給油できるとは限りません。災害の発生に備えるため、普段から満タンにしておきましょう」と呼びかけている。

満タン運動を口頭で説明するＳＳも（多摩市の永山石油多摩ニュータウンＳＳ・エネオス系）

ＳＳも独自に満タン訴求

〝満タン〟促進は、都内のＳＳ店頭でも独自の取り組みが始まっている。

都内人口の1320万人（2010年国勢調査時点）に対し昼間人口は1560万人と1・2倍に達し、特に都心部は昼夜人口格差が大きい（例＝石油会館のある永田町2丁目は約35倍）。こうしたなか、事業所などが災害発生を見越して各種備蓄を促進する意義は大きく、併せて都民個々の備蓄が混乱を低減することにもつながる。

東日本大震災の教訓を踏まえると、石油燃料の確保は重要だ。首都直下地震などの発生懸念が高まる中、都心部でも〝安心〟をキーワードに、セールスルーム出入り口とトイレ前で満タン促進を訴求するＳＳが出現した。

「常に満タンおすすめします」に加え、ガソリン携行缶予約販売の告知など、国家的有事おびかけているという。

「安心」のための満タンを勧めるＳＳ（中野屋東中野ＳＳ、深澤正樹社長・エネオス系）

奥多摩町 カーシェアで地域活性化
移住促進の一助にも

奥多摩町とタイムズ24は4月20日から、カーシェアリングサービス「タイムズカープラス」の車両3台を、同町が用意した奥多摩駅前に設置し、移動手段の提供や観光客の誘致などの地域活性化に向けた取り組みを開始した。

冬期の降雪に備え、いずれも四輪駆動・スタッドレス対応。そのうち1台は補助手すり付き福祉車両で、高齢者にも利用しやすくした。

また、クルマ非所有者の同町への移住促進を目的に、通常の入会時に発生するカード発行手数料（1550円）および月額基本料（1030円）を町民には無料とするほか、福祉車両の利用料も特別料金となる。

さらに、同町への来訪者増進策として、同社の「ドライブチェックインサービス」を活用。利用時に観光スポットや施設を行き先として設定し、実際に訪れるとタイムズカープラスの利用券がもらえる。

東京周辺高速 増加目立つ
高速交通量ＧＷ集計

高速道路各社が集計した東京周辺のＧＷ高速道交通量は、前年同期と比較すると東北道・加須～羽生が5％増、関越道・東松山～嵐山小川が6％増、東名・秦野中井～大井松田が4％増などだった。

また、中央・相模湖～上野原が3％増、圏央道・市原鶴舞～木更津東が8％増、外環・川口東～草加が1％減、東京湾アクアライン・川崎浮島ＪＣＴ～海ほたるＰＡが6％増、富津館山道・富津金谷～鋸南保田が1％減などとなっており、概ね好調だった。

中国

中国支局（広島市南区的場町1-7-20 広島県石油会館2階）
082（264）6623

ＧＷ商戦に一定評価
好天が奏功、賑わう観光地 黄砂で洗車増

最大で9連休となるゴールデンウィーク（ＧＷ）が終わった。昨年に比べ天に恵まれたこともあり、各地の観光スポットやイベントは多くの観光客で賑わった。管内のＳＳでは「例年ときほど変わらなかった」という声が多く聞かれる中で、「昨年と比べると販売量は伸びた」と一定の評価を下す指摘もみられた。

昨年は4月に発生し泣かされた格好で、高速道路のＰＡ内にあるＳＳなどでは「芳しくない結果」となってしまったところも多かったが、今年はＧＷ期間中、比較的好天に恵まれたこともあり山陽道のＰＡ内にあるＧＷ期間は、ＧＷ期間中のガソリン販売量を「前年に比べれば良かった」と評価した。

中国地方の高速道路の主な11区間の断面交通量は、昨年度同期間と比較して1日あたり平均で約6％の増加、最大日交通量で11区間の平均が約15％増加していて、思った以上に売上げを伸ばすことができたＳＳもあったようだ。

また、一般道沿いのＳＳでもＧＷ期間中の状況を「全般的には前年並み」とするところが多かったが、中には「前年を上回る売上げがあった」とするＳＳもあった。さらに、洗車についても大量の黄砂の影響などもあって「前年度に比べると良かった」というＳＳもあり、ＧＷ期間を通して比較的好調に推移したようだ。

道路交通情報版に渋滞箇所はなかった（7日午後）

管内経済判断は「持ち直し」
1～3月期

中国経済産業局が取りまとめた1～3月期の地域経済産業調査結果によると、設備投資は、製造業では受注増加のための前向きな動き、非製造業では新規出店や既存設備の維持更新のための投資がみられ「持ち直している」と判断した。

個人消費は百貨店・スーパーでは前年同月比2・8％減と3ヵ月連続で前年を下回ったがコンビニエンスストアは同1・4％と48ヵ月連続で前年を上回ったこともあり「緩やかに持ち直している」と判断した。

こうした個別の動向から、全体としては中国地域の経済は「持ち直している」とし、先行きについては、設備投資の持ち直しや雇用情勢の着実な改善が進み生産も上向きで推移するとの見通しを示した。

岡山が６月に乙４講習会開催
合格率アップに一役
「ぜんせきｗｅｂ乙４模試」を活用

岡山県の本年度の危険物取扱者試験（乙4）が、6月25日に実施される。岡山石商（小出総太郎理事長）では、試験直前の6月21～23日までの3日間、同石商独自の乙4講習会を岡山県石油会館で開催する。開催時間はいずれも午前9時から午後5時まで。募集人員は25人で、応募多数の場合は申込順で決定する。受講料は1人1万円。申込締切は今月20日。

乙4試験の合格率は、ここへきて30％を割り込むなど悪化の一途をたどっており、ＳＳの現場では人手不足問題とともに喫緊の課題となっている。同石商主催の「乙4受験準備講習会」は3日間の短期集中講座で、ＳＳスタッフにとっては必須の乙4資格一発合格を目指す。

さらに同石商では「ぜんせきｗｅｂ」が提供するeラーニング「乙4模擬試験」を、講習会受講者が期間内に無料で利用できる支援策を今期から導入する。無料利用期間は、講習会への申し込みが確認された日から試験当日まで。

講習会の受講前後に乙4模試に取り組むことで予習復習の効果が発揮され、合格率アップが期待できる。

資源エネルギー庁石油流通課の小山和久課長（写真）は先ごろ、全石連中国支部（大江英毅支部長）の理事・総務委員合同会議で「石油販売業を取り巻く情勢と今後の政策について」と題した講演と意見交換会を行った。概要は次の通り。

◇

中長期的にはガソリンの需要は減少していくという見通しの中で、ＳＳの役割は大きくなっている。1つは災害時の燃料供給拠点としての役割であり、改正備蓄法では石油組合や石油流通業者の役割が明確化され、「エネルギー基本計画」の中でＳＳはエネルギー供給の〝最後の砦〟と位置付けられた。直近では約1600ヵ所の中核ＳＳと、約500ヵ所の小口配送拠点があり、各石油組合でも地元自治体と災害協定を締結し、「総合防災訓練」にも参加するなど、災害対応能力の強化が進んでいる。

もう1つはＳＳの大きな役割として、ＳＳ過疎地対策の実施など、地域のコミュニティの中でのエネルギー供給拠点と自衛的備蓄ということで対策を取ってもらいたいということを呼びかけていく計画だ。

エネルギー供給の維持のために不可欠な取り組みについては、政策的な支援も講じていくべきとの提言も受けている。

元売販売子会社問題については、ガソリン販売シェアがいまや25％近くになっていることは、資金面で元売に依存しているということがうかがえる。販社にはシェアも大きい分、特約店などの模範となるような営業を行ってほしいと考えており、しっかりと利益を稼ぐ戦略を取っていただきたい。これからも少なくとも年1回は販社に対しても状況の把握や指導を行っていきたいと考えている。

小山流通課長が講演
事業継続へ多角化重要
中国支部

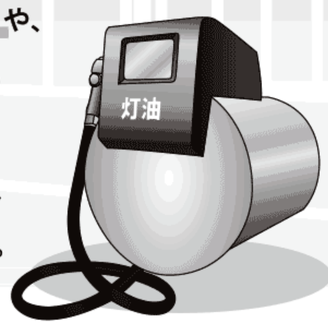
中長期的にはガソリンの需要は減少していくという見通しの中で、ＳＳの役割は大きくなっている。1つは災害時の燃料供給拠点としての役割であり、改正備蓄法では石油組合や石油流通業者の役割が明確化され、「エネルギー基本計画」の中で、ＳＳはエネルギー供給の〝最後の砦〟と位置付けられた。直近では約1600ヵ所の中核ＳＳと、約500ヵ所の小口配送拠点があり、各石油組合でも地元自治体と災害協定を締結し、「総合防災訓練」にも参加するなど、災害対応能力の強化が進んでいる。

さらに今後自家発電機を備えた「住民拠点ＳＳ」も整備されていくということで、全石連でも年2回の自家発の自主点検（稼働訓練）の実施といった取り組みを促している。『満タン＆灯油プラス1缶』運動についても、消費者に災害に備えた事業を継続していくためには、商品・サービスなどの多様化・多角化を図ることが重要で、エネ庁としても安定供給の維持のために不可欠な取り組みについては、政策的な支援も講じていくべきとの提言も受けている。

元売販売子会社問題については、ガソリン販売シェアがいまや25％近くになっていることは、資金面で元売に依存しているということがうかがえる。販社にはシェアも大きい分、特約店などの模範となるような営業を行ってほしいと考えており、しっかりと利益を稼ぐ戦略を取っていただきたい。これからも少なくとも年1回は販社に対しても状況の把握や指導を行っていきたいと考えている。

不要になった
計量機、買い取ります。

ガソリンスタンドの廃業や、計量機の入れ替えで
不要になった計量機は、是非日本スタンドサービスに
お売りください。
計量機の他にも、ミニローリーや、
コンプレッサー等周辺機器も
高価買取いたします。
無料でお見積りいたしますので、
まずはお気軽にお電話ください。



買取対象製品
固定式計量機／ノンスペース計量機／ポータブル計量機／ミニローリー／釣銭機／カードリーダー／コンプレッサー／バキュームクリーナー　他

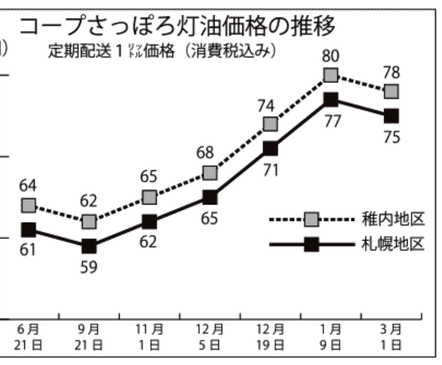
無料お見積り
お問い合わせは
0120-016-889
東日本地域のお客様 03-5721-4789　西日本地域のお客様 072-968-2211
メールでのお問い合わせ info@nssk.co.jp
ホームページ http://www.nssk.co.jp/ 又は 日本スタンドサービス 検索

古い計量機の
部品、取り扱っております。
日本スタンドサービスでは、計量機の中古部品を取り扱っております。
古い計量機の部品が手に入らずお困りの際は、部品の不足で計量機を
買い替える前に、是非一度弊社へご相談ください。
お客様のお悩みを解決できるよう尽力いたします。

日本スタンドサービス株式会社
当社は、計量機検定／修理・地下タンク漏えい検査・地下タンク老朽化対策工事・各種施工等、充実のサービスで給油所運営に貢献いたします。
大阪本社 〒578-0911 大阪府東大阪市中新開2丁目11-17
TEL.072-968-2211　FAX.072-968-3900
東京営業所 〒152-0003 東京都目黒区碑文谷2丁目21-6
TEL.03-5721-4789　FAX.03-5721-4787
◆ホームページ http://www.nssk.co.jp/
◆楽天市場店 http://www.rakuten.co.jp/auc-nssk/
日本スタンドサービス 検索
【事業内容】
◆自社計量機販売　◆給油機器販売　◆計量機検定　◆計量機修理　◆中古計量機買取・販売　◆中古部品販売
◆地下タンク漏えい検査　◆移動タンク漏えい検査　◆高精度油面計　◆電気防食システム工事　◆給油所新設工事
◆給油所廃止工事　他　お気軽にご相談ください。

量まずまずも〝疲労感〟

５月も半ばを過ぎ、北海道の長期間にわたる灯油商戦もほぼ幕を閉じた。今シーズンは10月下旬に札幌などで早くも初雪が降り、11月には寒波が定着。灯油の小売価格も11月は前年より最大で㍑40円近くも安くなり、消費者には近年にない「お手頃感」が発生し、販売業者には期待あふれる上々のスタートとなった。しかし、ＯＰＥＣ減産合意後の元売仕切りの急上昇に業者の転嫁は全く追いつかず、売るほどに赤字が膨らむ「魔の12月」を迎えることに。１月以降は仕切り値上げも沈静化してマージンの確保はある程度できるようになったものの、スタート当初の期待とは裏腹になった激動のシーズンを終えて、業者に残ったのは「疲労感」だけだったようだ。



北海道今冬 灯油商戦総括

好条件に膨らむ期待

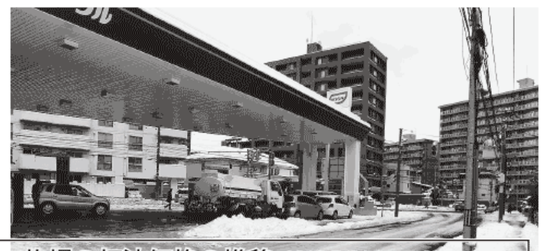
消費者にも近年にない「お手頃感」が生じ、北見消費者協会が10月初めに主催した「灯油懇談会」では、「安いに越したことはないが、あまり安くなると業者に負担がかかるのではないか」と業者を心配する声が上がったほど。業者も寒さと安値の好条件に、今冬商戦への期待がぐっと膨らんだ。しかし、このまま安定して推移するとみられていた原油価格は、ＯＰＥＣ減産合意から上昇局面に反転。特に灯油の元売仕切価格は11月以降、ガソリン以上の上げ幅で毎週のように改定が続いたが、全道プライスリーダーのコープさっぽろの反応は鈍く、本格的な転嫁を始めたのは12月の半ばを過ぎてからだった。

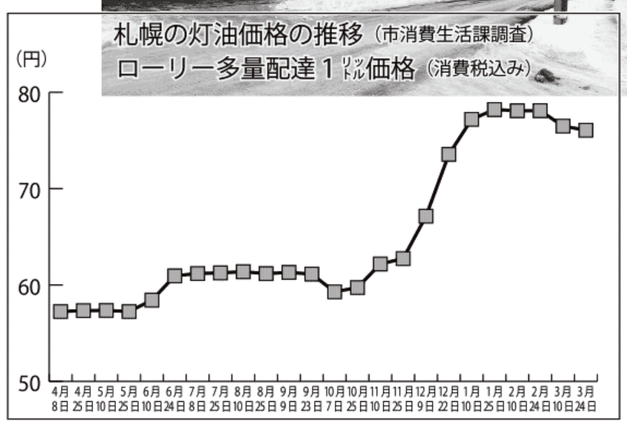
〝魔の12月〟で暗転

「11～12月は灯油だけ異常に仕切りが上がったが、コープは連動しなかった。このため我々も満足な転嫁ができなかった。道内業者のほとんどがこの時期、特に12月に大赤字を発生させたはず」と、業者の１人は振り返る。官庁納入も事前に結んだ契約価格の変更が難しいが、この業者がある官庁と結んでいた12月の契約価格は、実際の仕入価格より15円も安かったという。

コープさっぽろの今冬価格の推移をみると、９月21日に最安値の札幌地区で59円、最高値の稚内地区などで62円と、まだ秋半ばというのに「お手頃な」スタート価格を早々とアピール。その後は上昇反転し、11月１日に全道一律３円、12月に入ってからは５日に３円、19日に６円、１月９日にも同じく６円と合計18円値上げ。仕切価格は２月以降、緩やかに下がり始めたが、コープが下げたのは３月１日の２円のみで、その後は動いていない。

１月以降は一般業者も、適正とまではいえなくても、そこそこマージンが取れるようになっていたはずだが、「魔の12月」で負った傷はかなり深かったようだ。シーズン当初に膨らんだ期待は、収益面では叶わなかった。


札幌では11月初めには雪景色になり、業者の期待は膨らんだのだが…



販売量300万㌔㍑の大台も

今冬の灯油販売量を道経産局の調べでみると、需要期入り当初の10月は早くも寒波が訪れ、前年比プラス８・５％と好調な滑り出しをみせた。11月も厳しい寒さが続き、プラス35・３％もの大増販を記録。12月もプラス17・１％と２ヵ月続いてなっており、３月分を加えると2012年度以来４年ぶりに300万㌔㍑の大台を突破する可能性もある。「量」だけみると「まずまず」のシーズンだったのかもしれない。

今冬の灯油販売量を道経産局の調べでみると、需要期入り当初の10月は早くも寒波が訪れ、前年比プラス８・５％と好調な滑り出しをみせた。11月も厳しい寒さが続き、プラス35・３％もの大増販を記録。12月もプラス17・１％と２ヵ月続いてなっており、３月分を加えると2012年度以来４年ぶりに300万㌔㍑の大台を突破する可能性もある。「量」だけみると「まずまず」のシーズンだったのかもしれない。

2月までの合計は264万1660㌔㍑となり、前年比プラス8・2桁増となった。年が明けても1月は寒波がとどまり、プラス6・4％となった。だが、これ以降は寒さが緩む日が多くなり、2月はマイナス2・5％と減販した。

2月までの合計は264万1660㌔㍑となり、前年比プラス8・2桁増となった。年が明けても1月は寒波がとどまり、プラス6・4％となった。だが、これ以降は寒さが緩む日が多くなり、2月はマイナス2・5％と減販した。

年度別北海道内灯油販売実績（道経産局調査）

	販売量（㌔㍑）	前年比（％）
2000年度	4,466,847	102.7
2001年度	4,044,677	90.5
2002年度	3,966,706	98.1
2003年度	3,747,984	94.5
2004年度	3,960,422	105.7
2005年度	3,969,816	100.2
2006年度	3,608,582	90.9
2007年度	3,439,648	95.3
2008年度	2,973,486	86.4
2009年度	3,116,339	104.8
2010年度	2,748,190	88.2
2011年度	3,604,291	112.9
2012年度	3,414,172	94.7
2013年度	2,997,614	100.3
2014年度	2,634,712	87.9
2015年度	2,809,206	106.6
2016年度	2,641,660	94

※2016度は2017年２月分まで。

地域別灯油価格（配達）の推移　円/㍑（消費税込み）、出典：北海道経産局HP

	2016/10/3	10/11	10/17	10/24	10/31	11/7	11/14	11/21	11/28	12/5	12/12	12/19	12/26
道北地域	62.8	62.6	62.1	62.2	62.3	64.3	64.2	64.2	64.7	68.4	71.2	74.1	77.1
道央地域	60.2	60.4	60.2	60.2	60.2	62.1	62.2	62.4	62.7	65.7	70.0	74.4	74.6
道東地域	65.9	66.1	66.1	66.7	66.7	68.6	68.6	68.8	68.9	70.9	72.2	77.1	79.1
日勝地域	61.2	61.4	61.4	61.5	61.9	62.7	63.5	63.5	63.7	66.2	68.3	73.2	74.0
道南地域	62.7	62.6	62.9	63.1	63.1	64.7	65.2	65.2	65.6	68.1	71.7	76.1	77.2
全道域	62.6	62.6	62.6	62.8	62.8	64.6	64.8	64.9	65.1	67.8	70.8	75.1	76.5

	2017/1/10	1/16	1/23	1/30	2/6	2/13	2/20	2/27	3/6	3/13	3/21	3/27
道北地域	80.3	80.5	80.7	80.3	80.3	80.3	79.9	79.9	78.8	78.6	78.9	79
道央地域	78.7	79	78.8	78.9	79	78.6	78.4	78	77.3	77.1	77.1	77.1
道東地域	82.1	83.6	83.6	83.6	83.6	83.6	83.3	83.3	83.3	83	82.8	82.7
日勝地域	78.2	78.6	78.7	79.2	78.7	79.4	79.4	79.1	77.4	77.3	77.5	77.2
道南地域	79.9	81.1	81.2	81.3	81.3	81.3	81	80.9	79.6	79.6	79.4	79.4
全道域	79.9	80.7	80.7	80.8	80.7	80.8	80.6	80.4	79.4	79.2	79.3	79.2

4月市況概況

卸　陸上スポットは下落

系列仕切りも出光以外下げ

国内卸価格のベースは変わらず。中間3品となる中東産原油（ＦＯＢ）4月価格平均値（㍑換算）は前月比０・１円（０・５円安）、軽油56・１円（０・４円安）、Ａ重油55・１円（横ばい）となり、油種で分かれた。輸入ガソリン推計値は105・8円（０・８円高）と値上がりとなった。中間3品の推計値は灯油51・１円（０・１円高）、軽油51・４円（０・１円安）となり、いずれも小幅変動だった。

系列仕切りはガソリンが前月比で旧ＪＸ１・１円安（推計値）、昭シェル０・２円安、旧ＥＭＧ系列０・４円安（同）、出光０・８円高。中間3品は、灯油がＪＸ3円安(同)、昭シェル1・８円安、出光０・６円安、軽油もＪＸ1・９円安(同)、昭シェル2円安、出光は０・８円高となった。ＥＭＧ外販予想値おＪＸ先行仕切りから推計した4月のノンブランド玉月平均は１・５円、中京ローリ１ガソリンは1円安の107・4～108・2円。ガソリンの水準。4月調査の東京石商の仕切りアンケートでは系列仕入れは前月比1円安の113・2円、流通卸（業転）は０・５円安の108円。東京商品取引所の5月納会価格は東京バージガソリンが前月比1・１円安の103・2円。ガソリンについて資源エネルギー庁発表の卸価格調査の全国平均を一般的な特約店仕切りの平均値とし、そこから現物指標の平均値（配送料１・５円加算）を引いた、いわゆる業転格差は推計6・４円。

小売　前月比で46都道府県良化

10円割れ18県に縮小

資源エネルギー庁調査によるレギュラーガソリン小売市況4月の全国平均は前月比０・９円高の133・１円、最低価格は０・８円高の128・１円に値上がり。安値ＳＳの代表格であるジョイフル本田は０・１円高の121・９円に値上がり。

ガソリン小売粗利推計は全国平均で前月比1・１円良化の11・３円となり11ヵ月連続の２桁マージンを保った格好。特に前月比でみると、秋田以外の46都道府県でマージンが上昇。最も良化したのは福島の２・４円となった。一方、前年比では２・６円良化した。ただ、東京、富山の2都県はわずかだが悪化した。

粗利推計の10円割れは18県に縮小した。最低マージンは埼玉の６・８円となった。この粗利推計幅の算定基準としているエネ庁小売市況調査はフルＳＳも対象に含まれるため、セルフの多い激戦地の実勢値はより低マージンに陥っているとみられる。

軽油の小売全国平均は前月比０・４円高の112・３円。粗利推計は前月比1・８円良化、前年比０・３円悪化の18・３円。また、灯油店頭（㍑あたり）は前月比０・３円安の77・８円。粗利推計は前月比2円良化、前年比３・２円良化の17・３円。

全国的にマージンが改善

11カ月連続で2桁維持

週決め仕切りコスト・月間推計値（近距離ケースSS届け、消費税別:¥/㍑）※現物推計は軽上現物ベースの計算値

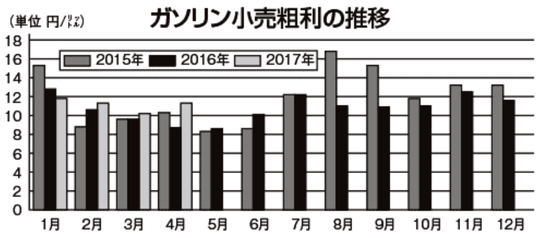
	ガソリン		灯油		軽油		A重油
	現物推計	TOCOM	現物推計	TOCOM	現物推計	TOCOM	現物推計
1月	108.2	105.6	60.5	53.3	55.4	48.1	52.3
2月	107.6	106.9	57.4	51.7	54.0	48.1	53.7
3月	112.5	107.0	56.6	48.6	56.5	48.1	55.1
4月	111.7	106.2	56.1	48.3	56.1	50.0	55.1
5月最近値	109.1	105.4	55.3	48.0	55.4	50.1	55.0

原油・ガソリン系列仕切り変動幅の推移（前月比）　円/㍑

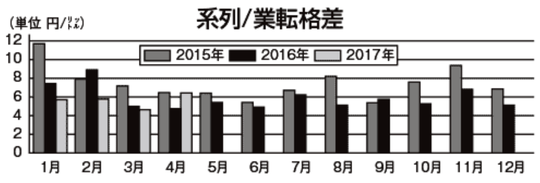
	原油	旧JX	旧EMG	出光	昭和シェル
12月	8.2	4.0	3.4	6.3	5.3
1月	0.5	2.3	2.0	2.8	2.1
2月	0.2	0.4	▲0.4	1.5	0.9
3月	▲2.3	2.8	4.4	4.6	3.8
4月	▲0.2	▲1.1	▲0.4	0.8	▲0.2

※出光、昭和シェルは公表値、旧JX、旧EMGは推計値、原油は中東産原油（円建て）

ガソリン小売粗利の推移



系列/業転格差



都道府県別小売粗利の推移（4月）

	ガソリン			軽油		
	粗利	前月比	前年比	粗利	前月比	前年比
北海道	10.8	1.9	3.6	21.4	3.1	3.7
青森	9.0	0.3	1.4	17.2	1.0	0.5
岩手	8.6	1.1	1.8	14.6	1.8	▲0.1
宮城	11.0	0.4	3.9	18.5	1.4	2.9
秋田	9.6	0.0	2.0	18.2	0.8	▲3.0
山形	11.5	1.0	1.1	18.6	1.5	▲5.0
福島	12.3	2.4	3.1	19.9	2.9	2.5
茨城	8.7	1.8	3.8	11.4	2.2	▲0.7
栃木	9.8	1.2	3.7	15.7	1.8	▲1.1
群馬	9.7	1.0	4.2	14.6	2.0	▲0.8
埼玉	6.8	0.9	1.2	11.9	1.6	▲2.3
千葉	9.2	1.1	2.4	14.1	1.5	▲1.0
東京	13.1	1.4	0.0	21.4	2.4	▲1.6
神奈川	9.6	1.3	0.9	15.3	1.9	▲1.8
新潟	8.2	0.7	1.9	18.3	1.3	▲0.4
長野	13.0	1.3	2.9	19.7	2.1	0.5
山梨	9.0	1.3	1.3	12.7	1.7	▲2.5
静岡	11.7	1.0	2.6	19.0	1.8	▲0.4
愛知	10.8	0.8	1.9	20.2	1.6	2.2
岐阜	13.5	1.1	2.5	21.4	1.5	1.3
三重	11.9	1.2	3.0	22.3	2.1	0.9
富山	10.2	0.3	▲0.1	18.2	1.3	▲2.7
石川	9.4	0.5	4.1	13.9	1.4	▲0.1
福井	11.2	1.2	3.0	16.2	1.4	▲2.2
滋賀	10.8	0.3	2.9	15.2	1.1	▲1.0
京都	12.2	0.6	1.1	19.7	1.1	▲1.4
奈良	9.9	0.3	0.5	17.1	0.2	▲2.6
大阪	12.3	1.0	4.9	17.5	1.4	▲1.2
兵庫	11.9	1.4	4.4	16.5	2.1	▲2.0
和歌山	11.2	0.1	1.2	15.2	0.4	▲2.2
鳥取	9.5	0.8	2.7	19.1	1.8	▲0.8
島根	13.3	1.1	1.5	22.6	1.9	▲0.8
岡山	9.4	0.6	1.7	16.2	1.3	0.0
広島	9.8	1.4	1.7	20.0	1.9	▲0.1
山口	10.6	0.8	1.5	19.7	1.2	▲0.9
徳島	9.2	0.9	4.3	11.9	1.8	0.1
香川	10.0	0.9	3.2	13.9	1.7	▲2.9
愛媛	13.3	1.8	4.4	21.7	3.1	4.5
高知	12.8	2.1	8.8	21.1	2.8	6.5
福岡	10.6	0.9	1.5	13.6	1.1	▲3.8
佐賀	14.6	0.7	3.1	21.8	1.4	▲1.1
長崎	17.9	0.8	2.1	28.2	1.5	1.2
熊本	10.8	0.4	2.3	16.3	1.3	▲0.4
大分	14.9	0.7	3.1	20.1	1.2	▲1.2
宮崎	11.6	0.7	4.1	18.1	1.7	▲2.5
鹿児島	17.8	1.0	1.7	25.2	1.4	▲0.8
沖縄	20.3	1.4	3.6	21.9	3.0	3.7
全国	11.3	1.1	2.6	18.3	1.8	▲0.3

※小売粗利推計:エネ庁公表週市況月平均値－同月卸価格（本紙推計）

タツノの「住民拠点SS整備補助事業」対象製品　TATSUNO

災害時の一刻も早いSS再開のために

SS向け緊急用発電機の発売から11年。
タツノはこれからも災害対応製品の提供を通じてSSの地域社会への貢献をお手伝いしてまいります。

QF-1001（架台型）

DGM80BMK/TAT（中型）

緊急用バッテリー可搬式計量機

上記以外にも豊富なラインナップを取り揃えております。　詳細は、弊社支店・営業所にお問合せください。

株式会社タツノ　本社／〒108-8520 東京都港区三田三丁目2番6号　http://www.tatsuno.co.jp/　TEL 050-9000-0567（営業本部営業部）